

2019年度 講座部本科 開講式

認定NPO法人
シニア自然大学校

認定NPO法人シニア自然
2019年度講座部本科

平成31年4月13日
大阪市立住まい情報センター



本年度アシスタントの紹介

平成最後のシニア自然大学校の講座部本科（以下 本科）の開講式が行われました。そして、ここに集まられた皆さんは、令和元年の受講生となります。

今年の新入校生は、最高齢は82歳で平均年齢は66.3才。緑組はなんと平均年齢70才直前です。今年も更に高齢化が進みました。又、昨年に続き、6組ものご夫婦の参加がありました。3組が星組に集中しています。受講生の女性の進出は著しく、昨年に男女比が逆転しましたが今年は、男性：女性が1：2と更に拡大しました。これも時代を反映しているようです。受講生の中には、大阪万博でコンパニオンをされていた方や、カレッジ受講後本命の本科に再入学された方など、様々です。

今年、本科の講座は大きく変わりました。

まず定員が各組48人、1班12人となりました。星組は、月2回土曜日だけの開講となりました。夏の熱中症対策もあって、講座回数も少し減りました。カリキュラムも組別特徴が出るように見直されました。安全配慮、ニーズの変動に対応した結果ですが、ニーズはもっと変わってきており、抜本的な改革が必要になってきているのかもしれません。

アシスタント構成にも、大きな変化がありました。女性アシスタントが5人になりました。本校始まって以来のことです。25周年を超え、女性の活躍するシニア自然大学校が始まるのかもしれません。

新入生は182人（緑組41人、風組40人、花組49人、星組52人）定員に少し足りず、4月一杯受付を継続することです。一人でも多くの方の参入を期待したいものです。

開講式は例年通り、濱面 誠シニア自然大学校代表理事の挨拶に始まり、役員・アシスタントの紹介が行われ、記念講演、オリエンテーション、各班に分かれての連絡事項と進みました。

濱面代表理事は、冒頭「シニア自然大学校を選んでいただきましてありがとうございます。」と令和最初の講座生となる皆さんに挨拶されました。元号の出典が万葉集であることにふれ「万葉集には160種の植物がうたわれている」との話題を提供。知識としての学びでなく、自然を守り育てるリーダーを目指してほしい。地球環境問題を自分の課題として捉えてください。など、社会とのかかわりを大切にする本校が目指す理念、講座生にかかる期待を伝えていました。そして「本校での出会いを大切に生涯の新しい友を見つけられ、楽しく充実した講座生活を過ごしてください」と、エールを送りました。



濱面 誠 シニア自然
大学校代表理事



山根 みどり 先生
財)山科鳥類研究所
保全研究鳥類標識セ
ンター協力調査員

今回の記念公演は山根 みどり先生の「タンチョウのお話ーその生態と標識調査ー」。受講生に祝辞を贈られた後、「私の講座は知識を詰め込むのではなく、親しみやすく一人でも多くの方に野鳥の魅力を感じていただき興味を持っていただければという内容で進めたいと思います。」と予定されている本科での講義に触れられ、本論。「ツルは世界で15種いて、南米大陸、南極大陸にだけ生息していません。タンチョウヅルは日本では北海道だけに生息していますが、多くの方が渡り鳥だと思っています。残念なことに、釧路のタクシーの運転手もそう思っているようで、渡り鳥だと説明しているようです。」「明治以前は、殿様しか食することが出来なかったのが、結果的に保護されていきましたが明治以降、そのタガが外れ、33羽まで激減、保護活動の結果1800羽まで回復しています。良かったと喜んではおれません。様々な問題が新たに発生しています。例えば、交通事故。線路内立ち入り禁止の標識を無視して堂々と歩いています。」など興味深く分かりやすい話を聴くことが出来ました。最後にタンチョウの雛が「会いにきてね」と誘っている愛らしい写真（右下写真）で講演は時間どおりに終わりました。（広報 芳澤）

